

こちらフリースクールです。 只今、ぬくぬくと冬を満喫中です。

フリースクールでは時々、みんなで作って食べるランチの時間があります。作りたいメニューを話し合い、まず買い出しに行きます。値段や品質を考えながら、材料を1つ1つ吟味して買っていきます。「こっちの方が安いじゃない?」、「ここを見ると新鮮かどうかわかるんだよ。」誰かが口にした雑学に「へえー」と口を合わせると、生活の知恵が伝染していきます。帰ってくると、協力して料理を作ります。「だれかー、人参の皮むいて」、「千切りってどうやるの?」、「じゃがいもの芽って毒あるらしいよ。」、「カレーにイカの塩辛入れると美味しいんだって。」切って、炒めて、味付けて、それぞれの家庭の味が融合します。今日もおいしい料理の完成。みんなで作るうちに、自然と役割分担が生

まれ、初めて料理を作る子も少しずつ好奇心をくすぐられ、調理道具に手を伸ばし始めます。その会話や、一緒に何かを作る中で、知らず知らずのうちに生活力やコミュニケーションの力が身についていくんです。楽しむのはもちろん、子どもたちはしっかり学んでいます。冬には恒例のクリスマス会があります。フリースクールのクリスマス会は、当日楽しむのはもちろん、その準備から楽しんで行っています。まず、どんな雰囲気の会だと参加しやすいか、やりたい企画、食べたい料理を出し合います。みんなと想いを共有することで、自分の思いに気づき、自分たちで決めることができるようになっていきます。今年のクリスマス会

のプログラムは、トーク企画やゲーム企画が、盛りだくさん。そして毎年恒例になってきた、漫才企画。ネタを自分たちで作って、本読み、立ち稽古をし、みんなの前で漫才を披露するというものです。みんなの前で、表現することは、スタッフでも相当緊張しますが、毎年子どもは舞台上に上がります。舞台上に立ち、みんなを笑わせている子どもも笑っていて、会場全体が温かい笑いに包まれる。笑顔が伝わっていく場所って素敵ですね。今年のクリスマス会も温かい会になりました。



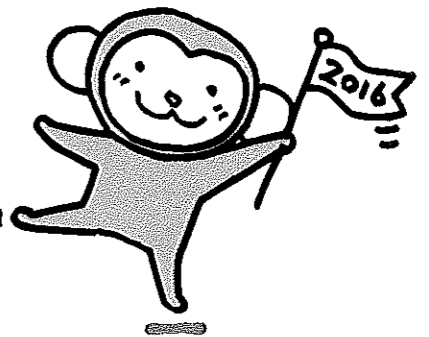
ビーンズ通信 Vol.73

●発行日/2016年1月10日

●発行元
特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
〒960-8066 福島県福島市矢剱町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

謹賀新年



お健やかに初春をお迎えのことと存じます。旧年中はなにかとご指導いただき、誠にありがとうございました。本年も子ども若者支援に、スタッフ一同誠心誠意努める覚悟でございます。なにとぞ本年も倍旧のご支援のほどお願い申し上げます。

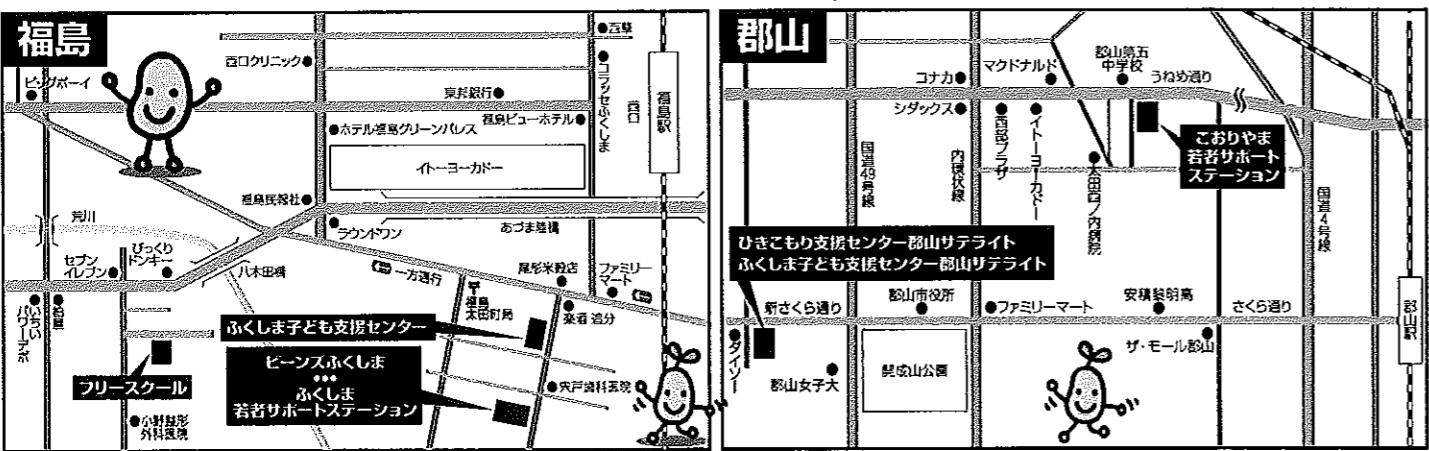
平成二十八年 元旦

編集後記

この時期といえば大掃除ですね。新たな年をすっきりした気持ちで迎えたいものですが、うちでは大掃除と合わせて(いや、掃除の前に?)、物が溢れ返っているので断捨離もしたいと思って早数年。やったためがありません。結果的に大掃除にも手が回らず、先日やっと、一昨年の12月に購入した「コンロ周りの油はね防止のアルミ箔のヤツ」を1年越しで取り替えました。皆さんは清々しく新年を迎えられましたか?

オープンハウスへのご協力ありがとうございました。11月に行われた、フリースクールオープンハウス。当日は、晴天に恵まれ、参加者を含め80人以上の方に来ていただき、多くの方にこの雰囲気伝わったと思っています。当日にお客様としていらして下さった皆様、一緒に活動していただいた保護者の皆様、そしてバザーの品物のご寄付など、様々な形で支えて下さった皆様、心より感謝申し上げます。

●第11回 全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in 福島
平成27年2月27日 28日(日)
開催場所: 桜の聖母短期大学



●ビーンズふくしまのホームページ はこちらへアクセス <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

子どもたち・若者たちが「希望」を語れる社会に

今年の干支は、申年。「申」という字は、「樹木の果実が成熟して固まってく様子」を表し、「種の保存」のため、世代を受け継ぎ・子孫繁栄させるために、鳥や獣に種子をばらまいてもらうために成熟するということだそうです。さて、そんな「申年」を迎え、私たちは何を次の世代に受け継ごうとしているのでしょうか。子どもたちの6人に1人が貧困という社会、困窮を抱えていながらSOSを出しにくい社会...そんな社会の中で、子どもたち・若者たちは様々な生きにくさを抱えています。ビーンズふくしまは、「生きにくさを抱える子ども若者が、自ら望む姿で、

つながることができる社会をつくる」をビジョンに掲げています。そんな社会を次の世代に受け継いでいきたいと考えています。子どもたち・若者たちが、これからの「希望」を語ることができる社会を私たちは、創っていかなくてはならないのではないのでしょうか。今年、福島で「第11回全国若者・ひきこもり協同実践交流会inふくしま」が開催されます。「支援と協力の架け橋～若者が未来を語れる明日～」を大会スローガンに、「生きにくさ」が生まれる社会を変えるための取り組み、若者が自らの人生・生き方そのものの主人公になれるような取り組みを、全国・県内から参加される皆さん

と共に共有し、議論していきたいと思っております。次の世代に引き継ぐことができる「果実」(社会)を共に創りませんか。多くの皆様のご参加をお待ちしています。会場でお会いしましょう。

●「第11回全国若者・ひきこもり協同実践交流会inふくしま」の詳細は、同封しました案内チラシをご覧ください。



NPO法人
ビーンズふくしま
理事長
若月 ちよ

皆さんに集っていただいたオープンハウス

初冬の風を感じた11月21日(土)、平成27年度のフリースクールビーンズふくしま「オープンハウス」を開催しました。子どもたちが話し合い、地域の皆さんやビーンズふくしまを支援して下さる皆さんを感謝の気持ちで迎えたい、フリースクールをみんなに知ってもらいたい、そんな想いで準備し、当日を迎えました。

玄関前では、フリーマーケット。会員の皆さんやスタッフからご協力いただいた品物を子どもたちがお客様とのやり取りを楽しみながら、販売しました。お買い上げいただいた皆様ありがとうございます。室内では、子どもたちが作る焼きそば、お母さんたち手作りの豚汁と炊き込みご飯、コーヒーとリンゴケーキの販売があり、席が常に埋まるくらい多くの方においでいただきました。

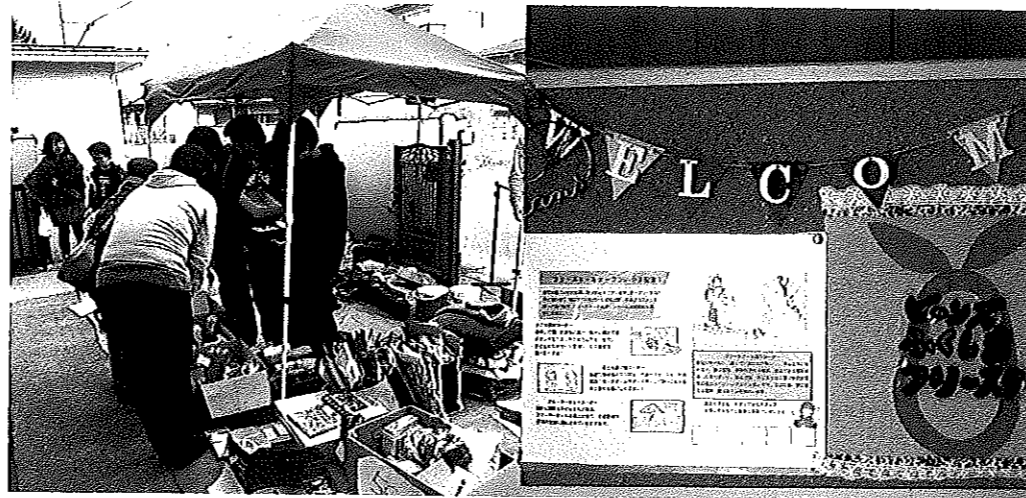
また、奥の部屋では活動紹介、動画を見ながら日頃のビーンズの様子を知っていただき、初めて訪れた方にも関心を持っていただくことができました。庭では、ゲーム。子どもだけではなく、大人も積極的に参加し、楽しんでいただくことができました。

様々な方たちの参加をいただいて

今回のオープンハウスでは、様々な方々に参加いただきました。フリースクールを利用している子どもたちのお祖父ちゃんやお祖母ちゃん。子どもたちがぜひ来てほしいと声をかけ、参加いただいたお祖父ちゃん・お祖母ちゃんは、子どもたちが元気に楽しげに活動している様子に、ホッとされ「安心しました」と言ってくださいました。

関係機関の皆さまにも、ご参加いただきました。スクールソーシャルワーカーの方、学校の先生、学校の相談員の方々にフリースクールの様子を見ていただけたことは不登校の子どもたちにつながる機会を広げることができたことと思います。

また、昨年に続いて参加いただいたフリースクールOBや近所の方々。OBの若者は昨年に続いて奥さんと子どもさんを連れての参加、一年ぶりに大きくなったお子さんに会うことができ、とてもうれしく思いました。近所



の方も「安心できる場所」と言っていたので、フリースクールの雰囲気を感じていただけたことも感激でした。

また、マスコミの方々にも、ゆっくり参加いただきながら、フリースクールの活動について知っていただくことができました。大きく紙面にも取り上げ

ていただき、広くフリースクールを知っていただく機会になりました。参加いただいた皆様、ありがとうございました。

参加者の声

【オープンハウスに参加して】
●日本ではフリースクールは、不登校の子どもしらばと一般的に思われています。実際に行くと、焼きそばを作ったり活動報告動画を見せたり子どもたちと会うと、確実に新しい価値を創造していることに驚きます。 ビーンズふくしま理事 竹内俊之様

【オープンハウスの感想】

●親子で初めてオープンハウスに参加しましたが、生徒達のみならず役割をしっかりと果たして、手際よく準備や片付けをしている姿を見て素晴らしいと思いました。保護者やスタッフの方々と交流もあり、楽しい時間を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。

【オープンハウスに参加して】
●今回初めて子どもと2人でオープンハウスに参加しました。カフェやパズル遊び場等で子どもも大人も一緒に参加し、活気にあふれていた事が印象的でした。動画などで活動を知事もでき、興味深かったです。



貧困対策事業 2事業合同！冬の「運動会」？

12月が目前に迫った11月29日、当事業とうつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト県中の2事業合同で運動会を開催しました。赤と白の2チーム対抗で障害物競争、玉入れ、パン食い競争、新聞紙で作った雪玉での雪合戦、リレーの5種目で合計得点を競いました。

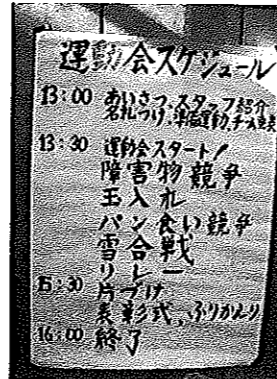
玉入れの籠をスタッフが背負って逃げるといった形で実施した玉入れでは、子どもたちのパワフルさにスタッフが圧倒されてしまい、終わってみると籠の中は子どもたちが入

れた玉でいっぱいになっていました。パン食い競争では準備をしている時からどのパンがどこにつけられるか下見をする熱心ぶり、自分の好みのパンを目指して一生懸命走っている姿がありました。

その一方で、気分が落ち込んでしまった子に、周りの子が改めて輪の中に入れるように声掛けをされるといった様子もあり、何かあったときに自分たちで解決していく逞しさも見せてくれました。

運動会の結果は、275点を獲得した赤チームが230点の白チームに勝利し、赤チームのメンバー全員にメダルが授与されました。

今回、初の2事業合同での活動ということで、初めて会う顔ぶれに戸惑う様子もありましたが、それ以上に寒さを吹き飛ばすような元気の良さや逞しさを



感じる事ができた一日となりました。そして今後も子どもたちが多様な体験の機会を得られるよう、他事業と連携をとりながら、より良い活動を目指していきます。

T O P I C S ビーンズの考える「多様性」

中鉢 博之

ビーンズふくしまの考える「多様性」とは何かということを考えてみたいと思います。「ビーンズふくしま」は皆さんご存知のとおり、フリースクールから発祥した団体です。日本で「フリースクール」というと、不登校の子どもたちの学校というイメージで捉える方が多いですが、世界的には、既存の学校や教育の制度・価値観に対置される考え方・価値観でつくられた学校や教育体系で、オルタナティブスクールとも言われます。(※オルタナティブ:「もう一つの」、"選択可能な"の意)

「権威主義」に対する「子ども中心主義」、「系統主義的なカリキュラム」に対しての「経験主義的なカリキュラム」などを特徴とし、これは「学び」ということに対しての根源的な問いや、生き方の価値観の転換も含む、思想や運動の体系です。

フリースクールを創ろうと思ったとき、実質的な関わりや所属を失いかけている子どもたちが、まずその存在を肯定され、ありのままをうけとめられる、安心できる「居場所」としての機能と、「望む形で学びたい、友達も欲しい、でも今の学校には行けない」という実際に接してきた子どもたちの声や願いに応え得るオルタナティブな「学びの場」の両面を大事にした場にしたと考えました。

オープンして実際に集まった子たちは本当にいろいろでした。一番多かったのは中学生ですが、小学生や、年齢的にはもう成人している高校在籍の生徒も学習面でのサポートを求めて通っていました。年齢も、家庭の背景も、不登校になった理由もさまざまです。陽気な性格の子もいれば、寡黙だけれど内に秘めているものを持っている子、背伸びする小学生もいれば、思春期の

難しさや葛藤を抱えた中学生もいたり。そんな多様なメンバーが、日常的な生活空間をともにしながら、それぞれのペースで過ごす。一緒にイベントで盛り上がることもあれば、ゆったりと自分の時間を過ごす時もある。外でおもいっきり遊ぶときもあれば、スタッフの開催する講座に参加して、文句を言いながらも意外と楽しんでいる時間もある。時には喧嘩もあつたけれど、「不登校」という形での社会的排除に対して、同じ状況下におかれていた「仲間」の、互いを思いやる気持ちや団結は、「居場所」が人を育む場として機能するための大きな力でした。また、地域に開かれた場で、スタッフ以外に関わる大人もユニークな人が多く、学校以外の世界の広がりを知ったことも、子どもの人生観や選択にプラスの影響をもたらしていたと思います。

「存在の肯定」、「共感と連帯」、「仲間同士のエンパワーメント」、「選択と自己決定」、「社会に開かれた学び」。これらの全てが縮図になっていた場がフリースクールにはあつたのだと改めて認識します。そして、ここで培われたDNAが、その後立ち上がった事業にも、少しずつ形を変えながらも確実に受け継がれています。

「子ども・若者が自ら望む姿でつながる社会をつくる」ビーンズが掲げるビジョンの一言です。

子ども、若者、親や家族も含めて、その背景・状況・願いの多様性を包摂し、1人1人が大事にされる。「居場所」や「繋がり」をつくり、関わり合いながら育ち、変容していく。そして、社会との多様な接点や選択肢をつくっていく。この一貫した取り組みがビーンズの考える「多様性」なのではないかと思うのです。